Interview 1

①Cooperative learning の概要

生徒がグループ内の他の生徒に教え、教えられることで学習内容を深め、学んだことを定着させる学習者中心の学び方。グループは異なる性質を持つ（男女、成績など）生徒同士の組み合わせが効果的である。個人の責任と互恵的な相互依存関係を活動に入れることが大切。

②Cooperative learning lessonsの注意点

グループワーク中心なので私語や、他の生徒に任せて何もしない生徒をいかに出さないように、課題を設定し授業を進めるかが大切。また、中学生は男女間での協力ができないこともある。

③Facilitatorとしての教師のあり方

これまでの日本の（英語）教育は教師が情報提供者とし学習のて主導権を握っていたが、生徒が主導権を持ち学ぶ協同学習では、教師は生徒の学びが促進されるように適切な声掛けや机の配置、適切な課題を作成するなどの役割を担うことが求められる。

④高校生に対するCooperative learning lessonsの活用法

グループ内で協力し、学びを深めることは、中学生・高校生・大学生ともに基本的に変わりはない。高校生であればグループワーク自体を英語で行うほか、ポスターを作って英語でのプレゼンや英語で書いた脚本を劇として製作するなど多くの活動が期待できる。

⑤PROGRESS21の進め方

PROGRESS21は、本来大量のインプットで英語力をつけていく考えの下作られているため、家庭学習（リピーターを聴き、声に出して繰り返す）が重視されている。授業でも協同学習と並立できるが、PROGRESS21の利点を取り入れられるよう研究が必要である。

⑥授業内での英語運用について

生徒間での話し合いが要になる協同学習では、中学・高校レベルでは意思疎通の妨げにならないように母国語の使用は最低限の範囲で認めている。一方で、グループワーク以外の時間で英語のインプット・アウトプット（リスニングや発話）の機会を設けることが必要である。

⑦生徒への接し方の注意点

グループワーク中は声を掛けすぎず、生徒間で答えに行きつくようにする。逆にグループワークの進行が芳しくない場合には、適切な注意と声掛けが必要である。

⑧教師のやりがい

生徒が成長すること。

⑨何を信念としているか

英語は楽しい、通じる！を実感させたい。

英語を通して世界中の多様な価値観を体験し、受け入れてほしい。

⑩教師とは？

難しいです…

今回は東京都にある私立M中学・高校のO先生にお話を伺いました。先生はCooperative Leaningというスタイルで授業を展開されており、生徒同士が助け学び合う学習環境作りを大切にされています。従来の教師から生徒への一方通行な授業を覆す授業の進め方です！